

## 蠟梅 Now

21世紀に入って、2度目の死亡災害を伴う火山の噴火が起こった。まだ記憶に新しい2014年9月に発生した長野・岐阜に跨る御嶽山の噴火では、登山者58名が死亡する大惨事になった。そして、群馬の草津白根山が噴火したのは2月3日。訓練中の自衛隊員1名が噴石にあたって死亡し、11名の負傷者が出た。

日本の活火山は110程度と言われ、その内50が火山噴火予知連絡会によって、「火山防災の為に監視・観測体制の充実等が必要な火山」に選定され、気象庁が各種観測装置を設置し、24時間体制で常時観測・監視している。噴火した二つの山は共に噴火前は火山活動が静穏な警戒レベル1で、噴火の兆候は見られず規制も特になかった。

白根が牙を剥いたのは、10時02分。9時59分に火山性微動を、10時00分には隆起の沈降を観測していたが、気象庁の監視カメラでは、天候不良で噴煙を確認できなかった為、噴火速報を発表できなかった。噴火の10分後に複数の噴煙目撃情報が寄せられていたにも拘わらず……。気象庁が動いたのは、1時間以上経ってからで、11時5分に噴火警戒レベルを2に、11時50分に3へとそれぞれ引き上げた。

リスクの補足が難しい対象であることに加えて、運悪く自然がもたらした天候不良も事態を更に深刻にした訳だが、はて、この先は……？

閑話休題。

当法人のシンボルツリー「蠟梅二世」は、11年11月の実生による誕生から7年目に入った。鉢植えであるため成長を束縛してきた面は否めないが、面倒見がそう良いわけでもないのに心配する事態になっていないのは、気候変化にも強く生命力が旺盛な種なのだろう。今は、すっかり落葉し、骨格だけというありさま。

年末から、年が明けても断続的な寒波が襲来し、都心の積雪など例年に見えない光景も見られ、高齢化の深刻な進行に伴い、豪雪に見舞われる地域は何時にも増して気の許せない状況下に置かれている。

「蠟梅一世」は、気候の所為とも思われないのだが、開花時期が前後して年を跨ぐこともあり、今シーズンはこの寒波の故？か、2月初旬でも未だ固い蕾に綻びは見られない。原産地の中国では、梅、水仙、椿と共に「雪中の四花」として尊ばれているという。もう少しの踏ん張りだ！



### 《発行者》

特定非営利活動法人 未来技術フォーラム神戸  
事務局長 大森 信  
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 2-2-4  
TEL&FAX : 050-2014-2293 (IP Phone)  
E-mail : info@npo-ftfk.or.jp  
URL : http://www.npo-ftfk.or.jp